

| 項目 | 確認事項 | 届出内容 |
|---|--|--|
| 基本情報 | 大学等名1(代表大学等) | 同志社女子大学 |
| | 大学等名1(代表大学等)※カナ | ドウシシャジョシダイガク |
| | 大学等名1(代表大学等)※学校コード | F126310107573 |
| | 大学等名1(代表大学等)学校本部所在地 | 京都府 |
| | 大学等名1(代表大学等)学校種別 | 私立大学 |
| | 科目名 | インターンシップⅡ |
| | 学部・研究科等名 | 現代社会学部現代こども学科 |
| | 担当教職員名・役職 | 塘利枝子：教授、真宮美奈子：教授 |
| | 受講者数実績年度 | 令和5年度 |
| | 受講者数※キャリア形成支援活動参加者数 | 6 |
| | 受入企業等数 | 1 |
| | 受入企業等名 | 同志社大学赤ちゃん学研究センター |
| | 産学協議会の整理上の類型 | 2.タイプ2（キャリア教育） |
| | キャリア形成支援活動の分類 | 1.長期（概ね1か月以上）のキャリア形成支援活動 |
| 7.高学年（大学3年次～4年次程度）又は修士課程学生を対象としたキャリア形成支援活動 | | |
| 11.地元企業・経済団体や地方公共団体等との協働による地域密着型のキャリア形成支援活動 | | |
| 上記以外のキャリア形成支援活動の分類(記述欄) | | |
| 要素① | 1-1.当該キャリア形成支援活動は、就業体験を伴うものになっていますか。 | 1.はい |
| | 1-2.該当する就業体験 | 2.企業等における課題の解決（例：ワークショップ、PBL型プログラム、課題解決ワーク、課題事例研究等） |
| | 1-2.で「3.その他」の就業体験の内容 | |
| | 1-3.上記回答内容に関する詳細 | 同志社大学赤ちゃん学研究センターと連携しながら、乳幼児の発達と支援について、保育実践面と研究面から学ぶことを目的とする。実際に乳幼児と関わりながら、乳幼児の行動や親子間のやりとりの観察、親面接へのオブザーバーとしての参加、発達心理学等を専門とする研究者の実験補助などを通して、乳幼児に関する最前線の研究について学ぶ。さらに自分の研究課題を設定し、現代こども学科で学んだそれまでの理論的な学びをさらに具体的・実践的に学習し、乳幼児に関する発達・保育における深い学びを目指す。 |
| 要素② | 2-1.当該キャリア形成支援活動を正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、当該取組の実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。 | 1.はい |
| | 2-2.該当するキャリア形成支援活動の内容 | 6.当該キャリア形成支援活動は、選択科目として実施している |
| | | 7.当該キャリア形成支援活動は、授業期間中に実施している |
| | | 8.当該キャリア形成支援活動は、休業期間中に実施している |
| | 2-2.「9.その他」で実施しているキャリア形成支援活動の内容 | |
| 2-3.当該キャリア形成支援活動を実施する年次 | 大学 学部3年 | |

| 項目 | 確認事項 | 届出内容 |
|-----|---|--|
| | 2-4.当該キャリア形成支援活動で付与される単位数 | 大学 2単位 |
| | 2-5.上記回答内容に関する詳細 | 乳幼児との実際に関わる経験によって、これまでの現代こども学科での理論的な学びをさらに具体的・実践的に深めるとともに、専門的な研究者が行っている乳児研究にも触れることで自身の関心を研究にまで広げ、学びを深める。本科目は選択科目・2単位で、共通学芸科目（キャリア教育科目）に属する。 |
| 要素③ | 3-1.インターンシップ等の就業体験の実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、キャリア形成支援活動の教育的効果が発揮されるよう就業体験実施期間中に適切なモニタリングを実施していますか。 | 1.はい |
| | 3-2-1.該当する事前学習の内容 | 1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用方法を身に付ける授業等を行っている 2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている 3.学生に対して、インターンシップ等の就業体験における成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている 4.学生に対して、正規の教育課程としてのキャリア形成支援活動の実施目的や期待する教育的効果の理解を促している |
| | 3-2-1.「5.その他」で実施している事前学習の内容 | |
| | 3-2-2.該当する事後学習の内容 | 1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている 2.報告会等により、インターンシップ等の就業体験の成果について、受入企業や担当社員へのフィードバックを行っている 3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている |
| | 3-2-2.「4.その他」で実施している事後学習の内容 | |
| | 3-2-3.該当するモニタリング | 2.インターンシップ等の就業体験実施期間中に、学生が定期的に大学等において教職員と面談を実施している |
| | 3-2-3.「3.その他」で実施しているモニタリングの内容 | |
| | 3-3-1.事前学習の内容に関する詳細 | 【事前指導】（事前指導時間：2時間×7日間＝14時間） ・5月中旬に学内オリエンテーションを行う。 ・6月中旬に同志社大学赤ちゃん学研究センター担当者、現代こども学科担当教員、受講学生による実習事前打ち合わせを行う。 ・研究テーマについて発表、研究課題・方法を定める。 |
| | 3-3-2.事後学習の内容に関する詳細 | 【事後指導】（事後指導時間：2時間×3日＝6時間） 自分の研究課題の最終報告書、出勤簿・記録日誌を提出したうえで、自分の研究課題について、中間発表と最終報告会を同志社女子大学内または赤ちゃん学研究センター内にて行う。2月に報告会（出席者：同志社大学赤ちゃん学研究センター実習担当者、受講学生、現代こども学科教職員）を実施する。 |
| | 3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細 | 「インターンシップII」担当教員が実習中に実習先を訪問し、実習生と面会して状況を確認する。受入れ先企業担当者に、実習生の取り組み状況を確認する。 |

| 項目 | 確認事項 | 届出内容 |
|--------|--|---|
| 要素④ | 4-1.キャリア形成支援活動の教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。 | 1.はい |
| | 4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み | 1.アンケートやレポートの作成をキャリア形成支援活動の実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている |
| | 4-2.「4.その他」で実施している教育的効果を測定する仕組み | |
| | 4-3.上記回答内容に関する詳細 | 事前課題、最終報告会レポートにより効果を定性的に確認している。 |
| 要素⑤ | 5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のキャリア形成支援活動の実施期間を確保していますか。 | 1.はい |
| | 5-2.該当する実施期間 | 4.その他 |
| | うち、就業体験の実施期間(5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合) | |
| | うち、就業体験の実施期間(5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合) | |
| | うち、就業体験の実施期間(5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合) | |
| | 5-2.「4.その他」の実施期間の内容 | 6月～翌年1月下旬にかけて、同志社大学赤ちゃん学研究センターにて原則として10日以上、延べ40時間以上の実習を実施 |
| | 5-3.上記回答内容に関する詳細 | 受講生が自分が研究したいテーマ設定を行なった後、そのテーマに沿った研究方法を授業担当教員及び受け入れ先担当者と相談しながら実習を進めていく。実習では、研究テーマに沿って本学にはない機材や自分で手作りしたおもちゃ等を使用しながら、研究対象者となる赤ちゃんとその保護者の協力のもと、実験を行い、その成果をまとめて行く。 |
| 要素⑥ | 6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。 | 1.はい |
| | 6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容 | 1.企業や産業界にとっての意義やメリット、必要な成果等を考慮し、企業と協働してプログラムを設計している 2.大学等が行う事前・事後学習等に企業等も参画し、協働して実施している 3.企業担当者が学生に対して適切に関与し、目標達成に導くなど、大学として必要な支援を行っている 4.受入企業等も、就業体験実施期間中の学生に対する評価を実施している |
| | 6-2.「7.その他」で実施している大学等と企業の協働取組の内容 | |
| | 6-3.上記回答内容に関する詳細 | 専任教員が事前に実習先と共同で実習内容を調整し、事前事後指導にもかかわる。また 実習中も本学教員が実習先に同行し、受入れ企業担当者とも面談し状況を確認して、受入れに係る負担軽減に努めている。 |
| | 7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL | https://kyomu-web.dwc.doshisha.ac.jp/cam3/slbssbdr.do?value(risyunen)=2023&value(semekikn)=1&value(kougicd)=460404&value(crclumcd)= |
| 問い合わせ先 | 大学等名 | 同志社女子大学 |
| | 担当部署名 | 現代社会学部・国際社会システム研究科事務室 |
| | 担当者役職名 | |
| | 担当者氏名 | |
| | 電話番号 | 0774-65-8543 |
| | メールアドレス | gensha-t@dwc.doshisha.ac.jp |